

地域協働かわらばん

つながる



(輪・和・WA…)

第9号(平成24年7月1日発行)
発行:盛岡市地域協働推進事務局

〒020-8530盛岡市内丸12-2
TEL651-4111(内線3851)

E-mail
chiikikyodo@city.morioka.iwate.jp

1 盛岡ふれあい覆馬場プラザが開館しました

青山二丁目に整備が進められていた「盛岡ふれあい覆馬場プラザ」(旧覆練兵場)が6月1日に開館しました。

同プラザは、既に地域協働に取り組んでいる「青山地区まちづくり協議会」が、市から指定管理者として指定を受けて、管理運営することとなりました。

これまでも、地域の自治会等の団体が指定管理者として市の施設の管理運営を行っていますが、地域協働の取組地区としては初めてとなります。

6月1日に開催された開館式に先立ち、観武ライオンズクラブから寄贈されたハナミズキを、佐々木トシ同クラブ会長と谷藤市長が敷地内に植樹しました。



(佐々木会長と市長によるハナミズキの植樹)



(プラザの落成を祝してテープカット)

開館式では、谷藤市長の式辞、整備までの経過説明、村田市議会議長の祝辞に続いて、谷藤市長、村田市議会議長、伊藤青山地区活動推進会長、旧覆練兵場活用懇話会座長の倉原岩手県立大学教授、遠藤青山地区まちづくり協議会長によるテープカットが行われ、プラザの開館を祝いました。

プラザは、市民の皆さんに幅広く利用いただくほか、今後、施設の特徴を生かしてイベントやワークショップの開催等が予定されています。

青山地区での取り組みは、今後の地域協働のモデルケースの一つとなることが期待されます。

2 地域協働の新しい取組みに期待します

盛岡市の地域協働の取組みについて、まちづくりや市民活動論がご専門の倉原 宗孝 岩手県立大学総合政策学部教授にお話を伺いました。



岩手県立大学 総合政策学部
倉原 宗孝 教授

◆盛岡ふれあい覆馬場プラザが開館したことについて、感想をお願いします。

このプラザの開館は、歴史的な価値を有する建物が新たな施設として整備された点だけではなく、地元の皆さんの熱意で保存のため市が取得・整備したプロセスにも価値があり、協働を進めていく上での出発点として大きな成果であると思っています。

◆プラザは青山地区まちづくり協議会が地域協働の取組地区として初めて指定管理者となることになりました。

指定管理者制度は、行政の外郭団体やNPOに任せることが比較的多かったように思いますが、地域の皆さんが立ち上がって協働で指定管理を目指した今回の姿は、地域協働の新しいあり方を開きつつあると思います。

◆地域協働はどのように進めていけばいいと思いますか。

地域協働はそれぞれの主体のいいところを出し合って、住民の皆さんが主体となって取り組んでいくものだと思います。

地区によってそれぞれテーマや内容、進め方は異なります。他地区の良いところを参考にしつつ、自分の地区を見つめ直すことが大切だと思います。ぜひ自信を持って、地区の良さを見つめて欲しいと思います。

盛岡市では、最初のステップとして（各地区で）形をつくっている段階ですが、次のステップでは、地域によって異なるさまざまな形が出てくると思います。それが相互に連携・協働していくことで、「盛岡らしさ」が生まれてくるのではないかと思います。

今月の1コマ



今月は、盛岡ふれあい覆馬場プラザ開館式の1コマです。

左の写真は、音楽を通じて開館式に花を添えた厨川中学校吹奏楽部の皆さんです。

ミニコンサートやテープカット時のファンファーレなど、息の合った演奏で開館式を大いに盛り上げてくれました。

地区の町内会長さんをはじめ、観武ライオンズクラブの皆さんや厨川中学校の皆さんなど地域の多様な方々が参加した開館式は、まさに地域協働そのものでした。